

## 令和2年度第2回幕別町創生総合戦略審議会議事録

### 1 開催日時

令和3年3月29日（月）18:30～19:00

### 2 開催場所

幕別町役場3階会議室3-A・B

### 3 出席委員（12名）

森委員、橋坂委員、藤原委員、加藤茂樹委員、佐々木委員、高道委員、山本委員、  
飯塚委員、喜多委員、久門委員、細谷地委員、森田委員

※原田委員、大槻委員、宮田委員、仙北谷委員、加藤リエ委員、堀委員、堀川委員、  
大山委員は欠席

### 4 審議

（1）令和2年度幕別町の人口動態について

（2）第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度事業について

### 5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山岸 伸雄
〃 政策推進課長	白坂 博司
〃 政策推進課副主幹	鳴海 走也
〃 政策推進課副主幹	小寺 博志

### 6 傍聴者

なし

### 7 議事録

（政策推進課長）

定刻となりましたので、令和2年度第2回幕別町創生総合戦略審議会を開会いたします。

まずは、本日の欠席委員をご報告させていただきます。原田委員、大槻委員、宮田委員、  
仙北谷委員、加藤リエ委員、堀委員、堀川委員、大山委員の8名から欠席のご連絡がありました  
ので、ご報告させていただきます。

なお、幕別町創生総合戦略審議会条例第6条第3項の規定によりまして、委員の過半数が出  
席しておりますことから、本日の会議が成立しますことを併せてご報告させていただきます。

次に開会に先立ちまして、新しい委員のご紹介をさせていただきます。北洋銀行幕別支店よ  
りご推薦いただいております中田委員が人事異動により転勤となりましたことから、北洋銀  
行幕別支店より橋坂英樹委員のご推薦をいただいております。任期につきましては、ご推薦い  
ただきました昨年の10月16日から前任者の在任期間である令和3年6月29日までとなってお  
ります。それでは、橋坂委員から自己紹介としまして、一言ご挨拶をいただきたいと思います。

（橋坂委員挨拶）

(政策推進課長)

橋坂委員ありがとうございました。

議事に入る前に、事前にお配りした資料を確認させていただきます。

資料1から資料2までとなっておりますが、資料が無い方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ここからは藤原会長から、議事の進行をお願いいたします。

(藤原会長)

皆さんこんばんは。

最近、こぶしもつつじも梅も桜も一緒に咲いてしまうんじゃないかという陽気ですが、皆さん免疫力を下げないように気をつけてください。また、季節の変わり目ですので、コロナに負けないようにしていただきたいと思います。

それでは議事に入ります。

議案第1号、「令和2年度幕別町の人口動態」について、議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

令和2年度の幕別町の人口動態の概要についてご説明いたします。

令和2年度の実績については、直近の令和3年2月末の人口を記載していますので、ご留意いただきますようお願いいたします。

資料2の1ページの「1 直近10年間の年度末人口」の欄をご覧ください。

まず、直近10年間の年度末人口ですが、令和2年度は令和元年度に比べ、幕別地区は92人減の5,491人、札内地区は46人増の19,468人、忠類地区は18人減の1,482人となっており、町全体では64人減の26,441人となっています。

ここ10年間の比較で申し上げますと、幕別地区は916人減・約14%の減少率となっており、地区別では最も減少しています。一方、札内地区では平成27年度以降は減少傾向であるものの、平成23年度との比較では16人の増となっています。なお、忠類地区は216人減・約13%の減少率となっており、町全体では1,116人減・約4%の減少率です。

次に自然増減に関してですが、令和2年度の出生者数は144人に対して、死亡者数は292人だったことから、148人の減となっています。この10年間の平均出生者数は169人であり、平成28年度以降は、平均出生者数を下回っています。また、死亡者数の10年間における平均死亡者数は291人となっており、自然増減だけで年間約120人は減少している状況です。

最後に社会増減に関してですが、平成27年度以降、転出が上回っている傾向となっておりますが、令和2年度は転入が転出を上回り、83人の増となっています。まだ、今年3月末の数値が反映されていませんが、進学や異動の時期となることから、社会増減による減少が増えることが予想されます。

また、資料に記載はありませんが、直近3年間の3月度実績の平均をみますと、自然増減は17人の減、社会増減は約80人の減、自然増減及び社会増減の合計は約100人の減となっています。3月26日現在、3月度の自然増減は13人の減、社会増減は78人の減、その合計は91人の減となっており、直近3年間の平均に近い状況となっています。

なお、前年比の64人減と自然増減と社会増減を合算した値の65人減が一致していないのは、職権削除などその他の事由によるものです。

次に、「2 幕別町人口ビジョンから推計した2025推計値との比較」の欄をご覧ください。人口ビジョンにおける2025年の推計値Aと、令和2年度末の人口Bを年齢別に比較したものです。

令和2年度の推計値26,520人に対して、実人数は79人少ない26,441人、達成率は99.7%とやや推計値を下回っている状況となっています。

0歳から14歳までの年少人口及び15歳から64歳までの生産年齢人口が減少傾向にある一方、65歳以上の老年人口は8,724人と、推計値より738人多く、高齢化が進んでいる状況となっています。

次に「3 高齢化率」の欄をご覧ください。

令和2年度末時点の町全体の高齢化率は33.0%、地区別では幕別市街地が最も高く44.8%と最も高く、札内市街地が28.4%と最も低い状況です。

なお、昨年度の町全体の高齢化率は32.6%となっており、年々上昇しています。

次に2ページ目をご覧ください。

「4 自然動態」ですが、令和2年度中の出生者数は144名、死亡者数は292人となっています。このデータに基づき算出した合計特殊出生率、つまり、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものは、1.31となっています。人口ビジョンにおける令和6年度の目標値は1.55となっていますので、その目標値は未達成となります。

最後に「5 社会動態」の欄をご覧ください。

転入者745人のうち約6割の421人が十勝管内市町村から転入している一方、十勝管内市町村へ転出した方は395人と、転入者が上回っている状況です。また、札幌市や十勝管外からの転入者が約3割に当たる188人、転出者が174名と、こちらも転入者が上回っている状況となっています。年齢別では、15～24歳の間で転出者が多くなっていますが、25歳以上は転入者が多い状況です。

説明は以上でございます。

(藤原会長)

事務局からの説明が終わりました。

皆様から何かご質問やご意見等ございませんか。

(森田委員)

社会増減の増の理由はなんですか。

(政策推進課長)

冒頭の説明にもありましたように、こちらの資料につきましては令和3年度2月末時点での人数となっております。3月に就職や進学等で転出者が増えるため、社会増減としてはマイナスの見込みとなっております。直近3ヵ年の実績でも100人前後が3月にマイナスになっているため、それを加味しますと今年度の社会増減もマイナスになる見込みとなっております。

しかし、ここ最近からみると減少の人数は圧縮できていると思います。その要因というわけ

ではないですが、町でマイホーム応援事業を実施しておりまして、町内に家を建てたり、中古住宅を買ったりする時に町より助成金を支給しております。そちらの利用がかなり多くありまして、そういう部分で転入者が多くなっていると思いますし、事業の効果が出ているのではないかと考えております。

(藤原会長)

それでは、議案第1号につきましては、これで終了とさせていただきます。

続きまして、議案第2号、「第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度事業」について、議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度事業についてご説明いたします。

総合戦略では、計画の進捗状況を検証するため、数値目標、KPI、それに紐づく事業を設定し、毎年、効果検証するとともに、必要に応じて見直しを行うこととしています。

来年度は第2期総合戦略の計画期間の2年目にあたり、今回配布させていただいた資料は、その2年目に実施する事業を一覧にまとめたものとなります。

各事業の詳細説明は、時間の都合上割愛させていただき、新規事業と拡充事業を中心にご説明させていただきます。

2ページをご覧ください。

基本目標2の「十勝・幕別への人の流れをつくる」ですが、左下の「スポーツ合宿・大会誘致の推進」では、平成30年度から今年度まで地方創生推進交付金を活用した事業として実施していた「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を来年度も継続しますが、拡充事業として「十勝の農畜産物による食と運動との連携」を実施します。

具体的には「幕別町産農産物を活用したアスリート向けのレシピ開発」を行います。令和元年1月に連携協定を結んだ日本体育大学と連携し、幕別町で生産されている農産物の栄養素が運動やパフォーマンスに与える影響を分析し、科学的な根拠に基づいた「アスリート向けのレシピ」を考案します。令和4年度までの事業で、令和3年度はターゲットとする農産物調査、エビデンス収集を行う予定です。

次に3ページをお開きください。

基本目標3の「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の「結婚の希望に応える支援」では、「結婚新生活支援事業」の内容を拡充します。補助対象要件が、これまでの「年齢34歳以下かつ世帯所得340万円未満」から「年齢39歳以下かつ世帯所得400万円未満」に拡充されます。令和3年度は、1世帯あたりの補助上限額である30万円を5件見込んでいます。

次に4ページをご覧ください。

「魅力ある教育環境の整備」の「魅力ある高校づくり推進事業」では、これまで事業の継続に加え、特色ある学習支援では、地元企業等へのインターンシップの実施や東京大学による出前授業の開催、東大生との交流を図ります。豊かな高校生活支援では、NPO法人幕別札内スポーツクラブの年会費の一部を助成する予定です。

また、新規事業として、「臨時英語指導助手の配置」を追加いたします。現在配置されてい

る国際交流員2名に加え、臨時英語指導助手を1名配置し、小学校3・4年生の外国語活動及び5・6年生の外国語授業を補助し、魅力ある教育環境の整備を図ります。

次に5ページをご覧ください。

基本目標4の「安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる」の「自助・共助・公助の連携による防災体制の強化」では、防災情報機器管理事業を一部拡充する予定です。令和元年度より携帯電話・スマートフォンの登録制メールによる災害・避難情報を発信していますが、無料通信アプリ「LINE」を活用した運用を令和3年4月から本格的に開始予定です。

現在、LINE利用者の個人情報に中国の関連会社で閲覧できていたことが問題となっておりますが、今後の国や他の自治体の動向を踏まえて、事業の実施有無については慎重に判断していきます。

次に「生活支援の連携体制の構築」では、新規事業としてフレイル予防事業を追加いたします。口腔ケアやリハビリの専門職を招き、多角的に介入させ、運動や認知機能改善を図り、加齢による心身の活力の低下を予防します。

最後に6ページをご覧ください。

左の「障がい者の自立支援」の新規事業として、ひきこもりサポート事業を実施します。この事業は、ひきこもり当事者の自立を促進し、家族等の福祉の増進を図るため、ひきこもり支援アドバイザーによる相談窓口の周知、職場体験の実施など、ひきこもり状態にある方やその家族等を支援します。この事業により、基本目標の基本的方向である「地域コミュニティの維持」を図ります。

右下の「公共施設等の適切な維持管理」の新規事業として明野ヶ丘公園再整備事業を追加いたします。当該事業は令和2年度から事業を開始しておりますが、令和3年度中に再整備に係る基本計画を策定予定となっております。この基本計画に基づき、適切な維持管理や運営など、公園の更なる活性に向けた推進を図ります。

説明は以上でございます。

(藤原会長)

事務局からの説明が終わりました。

皆様から何かご質問やご意見等ございませんか。

(森田委員)

町歌の中に「幕別のおか」とありますが、これはどこを指しているのでしょうか。また、ここを舞台にしてスポーツ行事等に結びつけることはできないか。

(企画総務部長)

町歌の作曲は万城目さんで、作詞は小倉さんという女性の方ですが、その方の出身は古舞です。「稲穂がゆれる」という歌詞からも、古舞・途別のイメージではないかと思えます。

(森田委員)

ひきこもりサポート事業ですが、大人のひきこもりは把握できますか。

(企画総務部長)

町が把握している分としては、18名の方がひきこもり状態であることを確認しています。ただ、何歳で何人というは現時点ではわかりません。

(森田委員)

大人のひきこもりを発見できるかなということが一番の問題だと思います。

(企画総務部長)

介護の世界では8050問題が社会問題としてはあります。この事業では、ひきこもり状態の方の把握もそうですが、社会に参加していただくようなきっかけをつくることを目的としています。カフェのような環境を作り、本人だけでなく家族も気軽に相談ができるようにしていく事業となります。

(加藤茂樹委員)

結婚新生活支援事業ですが、他の町村と比較して差別化している部分はありますか。

(政策推進課長)

町の単独事業ではなく、国にこういった補助事業のメニューがありまして、それに町が乗っているという状況です。また、補助上限額30万円ですが、他の町村も同じメニューに乗っているのであれば同じ事業を実施しているということになります。

(加藤茂樹委員)

たぶんそうだろうなとは思ったんですけど、地方はもっと苦しんでいるのだから、補助額を増やす等の町単独の支援はしないかと思い、発言させていただきました。

(政策推進課長)

ありがとうございます。確かにその土地土地でかかる経費も変わってくるので、幕別に見合った数字というものは当然考えていかないと思っています。

現在、補助上限額30万円の対象経費は主に引越資金となっています。直近の実績をみますと、その30万円以内に収まっている状況ではあります。加藤委員の仰るとおり、それ以外の費用についても町の単独で十分考えられると思いますので、その点については担当課へお伝えさせていただきます。

(藤原会長)

それでは、議案2号につきましては、これで終了とさせていただきます。以上で、本日の案件は全て終了いたしました。その他として、委員の皆さんから何かございますか。

最後に事務局から連絡事項はありますか。

(事務局)

次回の開催は7月頃を予定しております。事前に開催案内、資料を送らせていただきますのでどうぞよろしく願いいたします。

(藤原会長)

それでは、本日の審議会は終了いたします。ありがとうございました。